

新潟発



ルクス・エナジー

ルクス・エナジー(新潟市、渡辺和市長)は、工事現場での写真撮影を補助する小型の発光ダイオード(LED)ライトを製造・販売する。耐震偽装問題などを経て工事現場での安全管理に対する意識が高まるなか、大手ゼネコンを中心に需要が拡大している。市場規模は大きくないものの、競合他社は少なくニッチ市場で稼ぐ体制を築きつつある。

同社は2009年創業のベンチャー企業だ。もともとソフトウェア開発を手がけていた渡辺社長が、以前から交流があった張務(ちようむつ)専務からの依頼

《会社概要》

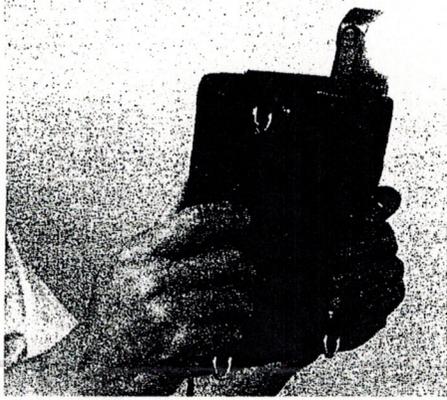
- ▽本社 新潟市中央区東幸町12の1
- ▽事業内容 LEDライトの製造・販売
- ▽従業員数 7人
- ▽売上高 1億円(2016年6月期見通し)

写真撮影補助LEDライト製造

を受けて設立した。張専務はLEDの可能性を感じ日本市場への参入を模索したものの、販路など売り方を知らなかったことから渡辺社長に話をもちかけたという。

現在、建設業界を中心に注目を集めているのが、同社が開発した「LEDライト・Smile Aim(スマイルエイム)」だ。ある大手ゼネコンの社員がタブレット(多機能携帯端末)で暗い建設現場の様子を写真撮影しようとしたものの、内蔵されているライトでは遠くまで照らせないといい問題があったことから、ルクス・エナジーに開発の打診があったのがきっかけだ。

スマイルエイムはiPa



開発したスマイルエイムはタブレットなどに取り付けて使用する

建設業中心に需要拡大

d(アイパッド)などタブレットに取り付けて使用する。高機能のLEDチップを使ったことで約10倍先まで鮮明に照らすことができ、ほか、拡散フィルムの使用で一点だけではなく、全体を明るく照射することもできる。

ライトの重さは200g以下にしてほしいという要求にこたえるため、鉄の厚さを極限まで薄くした。プラスチックの不要な部分も削り197gと軽量化に成功した。

スマイルエイムは中国で展開する合弁会社の工場で生産している。特に力を入れているのが品質管理だ。検査のマニュアルを日本基準にしているほか、高水準の品質管理を持つ日系メーカーと組んで工場を運営するなどして生産体制を構築している。

今後はスマイルエイムの開発で培った技術を生かし、ヘルメットに取り付けるLEDライトの製作などを検討しているという。渡辺社長は「既存の大手と競争してもベンチャーは生きられない。ニッチ市場で特殊性のあるライトを作り続ける」と話している。

(新潟支局 大鐘進之祐)